

令和 2 年度

事業所名： すみれグループホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100113		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	すみれグループホーム		
所在地	〒020-0016 岩手県盛岡市須川町20-34		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人内に協力暴飲や訪問看護ステーションがあり、医療面の連携サポートが充実しています。体調不良者が出た際も迅速に対応出来、ご家族やご本人が「看取り」を希望された場合は協力しながら、最後の時をお過ごし頂ける様になっています。また管理栄養士が作成したメニューをもとに季節感あふれる食材を提供し、旬の味覚を感じて頂いています。すみれは盛岡市中心部に立地している事から、ご家族様や組合員様に気軽にいらして頂いたり、近くのお寺の協力で「認知症カフェ」や「すみれ祭」を開催し、スタッフ・入居者様共に、地域の方と交流する機会が多くあります。入居者様一人一人に寄り添い、ご本人が望まれている事に少しでも近づけるケアが出来る様に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の協力病院や訪問看護ステーションにより、医療連携体制が構築されており、医療や日頃の健康管理、看取りの充実が図られている。地域との交流を積極的に実施し、事業所主催の近くのお寺での「寺町カフェ」(毎月実施)では、参加している地域の方から、自由に語り合え気兼ねなく過ごせる場として信頼を得ている。また、年1回の「すみれ祭り」には、お寺の本堂まで提供していただき、小・中学生や一般の住民の方々100名を超える参加者で、利用者も歌を披露するなど、地域の楽しみの行事になっている。今年度は、コロナ禍により、外出や行事開催が制限されているが、終息後再開を予定している。法人は、各種研修を実施し、職員の資質の向上を図っている。職員は、ネームホルダーに理念を入れて持ち歩き、日々の業務の中で意識し実践に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療生協の介護を」の介護をもとに、開設時作成した理念を継続している。理念をもとに、日々のケアの中で実践できる様に取り組んでいる。各自、ネームホルダーに理念を入れ、実践できる様に意識しながらケアをしている。	運営理念は、利用者がグループホームを自宅と思ひ、四季を感じながら暮らし、地域と交流し、豊かな生活を送ることを願って作成されている。ホームの共有スペースに掲示し、また、職員は、ネームホルダーに入れた手書きの理念を意識しながら日々のケアを実践している。	コロナ禍で、職員も様々な悩みや葛藤があるが、質の高いケアを目指して取り組みを行なっていることが窺われる。今後も、理念に根ざしたケアの充実を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長や民生委員と顔の見える関係を築き上げ、町内やすみれの現状の情報交換を行っている。コロナウイルス感染症の蔓延の為、地域への行事の発信や参加を控えた。	これまで、町内会に加入し主催の行事に参加し、また、事業所主催の「寺町カフェ」(毎月)や「夏祭り」(100人以上参加)を、地域のお寺の全面的協力をいただいて開催していた。利用者も歌を披露したり楽しみにしていたが、現在、コロナ禍で開催を見合わせている。小中学生のボランティア来訪も中止している。	寺町カフェや夏祭りは、近くのお寺の全面的協力を得て地域に根付き、運営も参加者の意見を取り入れ、地域の憩いの場として貴重な存在になっております。今後とも継続して取り組まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同建物内の認知症デイサービスの活動などを広報やツイッターで発信している。(寺町カフェはコロナの影響で休止中)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営委推進委員として町内会長や民生委員、地域包括の方にご参加頂き、入居者様の日常の様子を報告したり、施設の課題など協議しています。ご家族様や入居者様にもご参加頂き、意見を反映している。町内会長は、自主防災隊でもあり、防災の情報や避難訓練の協力を頂いている。	運営推進会議は、コロナ禍のため書面開催としている。会議資料を送付し、電話で意見を聞いており、委員からは、コロナ禍にあっても工夫してケアに当たっていると励まされている。課題としている運営推進会議の参加者について、協力頂いているお寺の住職さんや警察、小学校への働きかけは進めていない。消防からは多忙のためと断られている。利用者や家族の参加はない。	運営推進会議のメンバーとして、基準省令第85条に利用者、利用者家族とあり、参加を検討するとともに、前回の課題でもあった、警察や小学校への働きかけを継続されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請等の必要書類の提出は直接出向いている。運営に対する事や入居者の対応に困った際には随時相談しています。生活保護受給者の受け入れも行っており、必要時ケースワーカーと連絡を取り、相談したり、情報交換をして、現状の共有をしている。	担当課とは要介護認定申請等の書類を持参し、助言や情報をいただいている。生活保護を受給している方も受け入れており、家族のことや入居費のことについて、生活保護担当課に相談している。市との連携は図られている。	

令和 2 年度

事業所名 : すみれグループホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束禁止に取り組み、研修もしている。建物のセキュリティの問題で、EVの乗りこみに暗証番号の入力が必要だが、いつでも入居者様が入り出来る様に、見える位置に掲示しています。セキュリティについては契約時に説明を行い、承諾を得ていますコロナウイルス感染症の影響で外部の研修には参加出来なかったが、部署内で学習し、「身体拘束を行わないケア」に積極的に取り組んでいます。自身のケアの振り返り、不適切な言葉や、慣れ慣れしい態度が無い確認、スタッフ間でもアンテナを高くしている。立ち上がりや、歩行不安定な方には、ご家族了承のもと、センサーを利用しています。	事業所は、3階建ての建物の2階にあり、エレベーターでの出入りのため、利用者の見える位置に、エレベーターの暗証番号を掲示している。身体拘束適正化委員会は職員全員をメンバーとして、毎月開催している。研修では、身体拘束の基本から学んでいる。不適切な言葉や態度には「今のは・・・」と職員同士で気付かせるようにしている。歩行等が不安定な利用者には、家族の了承の下にセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会に参加し、学ぶ機会を作っている。入居者様のケアを行う際は、スタッフ同士声をかけあい、所在を明確にしています。入居者様の身体に出来た傷や内出血等は、必ず複数で確認し、原因究明や再発防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会への参加が出来ておらず、スタッフの体制作りをし、学ぶ必要がある。入居者様の状況の変化により、必要時適切な支援が出来る様、体制強化が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の差は可能な限り施設内を見学して頂いています。安心してご契約頂ける様に、事前に十分な時間確保が出来る様にお声掛けを行い、疑問や不安にお答えし、納得頂きながら契約締結をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に窓口を記載しています。これまで意見箱への投稿は無ないものの、運営推進会議や各種イベントでお越しいただいた際は、積極的に交流の機会を設け、意見や要望を聞き出せる様にしています。入居者様のご様子は2か月に1回手紙を郵送しています。コロナ禍の影響でイベントや面会が出来ない為、ホームでの表情を写真に取り、様子がわかる様にしています。	家族との面会が制限されていることから、2か月に1回利用者毎に、日常生活の写真と、現状経過を手紙でお知らせし、感想や意見を聞いている。家族からは、電話で、感謝のことばを頂いている。	

令和 2 年度

事業所名 : すみれグループホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催して、現状や課題について話しあったり、業務内容や入居者様のケア方法について意見交換をしています。会議の時間をはじめとして、日頃からスタッフの意見を聞く機会を設けています。新卒者を迎えたり、スタッフの人事異動も有り、業務見直しやマニュアルの整備を行っています。	毎月のスタッフ会議で職員の意見・提案を聞いている。職員の申し出に応じて、勤務体制の変更に配慮している。浴室の換気扇の交換も、職員の意見により直ちに新しくしている。外国人研修生を2名受け入れており、指導する職員も勉強になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人には労働組合があり、スタッフの要望や意見など労働組合を通じて、労働条件などを話し合っています。管理者会議でも現状や困っている事など報告出来る体制になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務保障内で研修参加出来る様に努めています。中途採用者や新人スタッフには、エルダー制度を導入し、相談しやすい環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修では、他部署のスタッフが沢山集まる機会が、情報交換が出来ています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にご本人やご家族様の声に耳を傾け情報を共有できるように努めています。ご本人が直接伝える事が出来ない方には、ご家族様にお話を伺い、安心できるケアが出来る様に関係作りをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学や申し込みの際には、ご家族様の困っている事や、不安な事に耳を傾け、安心感を与えられる様に努めています。生活歴や要望等配慮しながら、ケア出来る様に情報共有しています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時や契約時は、心身の状況や要望を聞きながら優先順位を検討しケアプランに反映しています。相談内容によっては担当OMIに相談を促している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で自分らしさを大切にし、「楽しみ、喜びを一緒に感じ合いたい」を大切にし出来る事は行って頂き、役割を感じて頂ける様に努めています。常に感謝と尊敬の気持ちを持ち、いつでも生活を富にする関係を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会が出来ない為、生活の様子がわかる様に手紙を書いています。イベント開催時に写真を撮り様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会や、天気の良い日には近隣のスーパーや薬局にスタッフと出かけています。GWやお盆など自宅に帰ったり、馴染みの美容院に出かける方も居たが、入居者様の重度化に伴い外出が難しくなっている。	これまで、ゴールデンウィークやお盆に、自宅に帰ったり、馴染みの美容院に出かけたりしていたが、利用者の重度化やコロナ禍で、外出が難しくなっている。訪問理容や折り紙ボランティアの受け入れも中止している。外出できないことから、3階のバルコニーで気分転換を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を十分に把握し、会話が上手く出来ない。聞こえない方には、スタッフが間に入り、孤立しない様に配慮しています。不安を感じやすい方には、その方にとって落ち着く環境を提供できる様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、私達にお手伝い出来る事は声をかけて下さる様にお伝えし、相談しやすい関係性を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様のお話を伺い、「○○したい」「○○食べたい」等の希望をくみ取り、叶えられる様にしています。ご本人が上手く伝えられない方にはご家族様にヒントを頂き、ケアに反映できるようにしています。入居者様との日々の関わりの中で、ご本人が何気なく発した言葉=つぶやきを大切に、思いや意向の把握に努めています。外出できない分、誕生日の方の食べたい物のリクエストに答えています。	利用者が、何気なく発した言葉=つぶやきを大切に、様々な方法で思いや意向の把握に努めている。事実、言葉を自由に話せず、体重も減少してきた利用者について、家族を通じあんこや炭酸飲料が好きなことを把握し、早速、甘いものや炭酸飲料を提供してみた。その結果、炭酸飲料のペットボトルのふたを開ける音、炭酸の泡の音が刺激になった様子で、食事が摂れるようになり、体重も戻ってきてのんびり過ごせるようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけでなく、ご家族様からも今までの様子を聞き、職業や趣味、嗜好品等の情報収集を行い、スタッフ間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りにて買う人紙、特変時はしっかり記録を残し、必要時はご家族様や訪看・往診と連携し指示を頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間、ご家族様とも情報共有を密に行い、現状に合わせたプランニングを行っています。日々のケアの中で気になる事はスタッフ間で話し合い、医療面の場合は協力医に相談しながら連携を深めています。ケアマネが原案を作成し、スタッフ会議等で話し合い、見直しを行っています。スタッフの思いもしっかり聞きプランに反映出来る様に活発に意見交換を行っています。	介護計画は、介護支援専門員が原案を作成し、スタッフ会議で話し合い、その都度見直しを行っている。初回は1ヵ月、その後は6ヵ月毎に見直し、モニタリングも介護支援専門員が行なっている。家族に見直した計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人生活記録が有り、プランに沿って毎日記入しています。記載された情報はスタッフが共有出来る様にしており、新たな気づきや変化も業務日誌を活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で外出が出来なかった分、バルコニーで風を感じたり、トマトの収穫をして楽しめました。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の調剤薬局利用時は、入居者様の体調面や気になる事をお伝えし薬剤師との関係を築いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人・ご家族様から主治医について意向を確認しています。個々の希望や、心身の状態に合わせて専門医の受診も勧めています。現在は入居者様全員が協力医と契約しており、月2回の訪問診療を受診しています。皮膚科や耳鼻科等、専門医の受診同行は原則ご家族様にお願いしていますが、情報交換は密に行っています。	利用者全員が、協力医療機関の訪問診療(月2回)を受けている。歯科の往診も行なっている。皮膚科や耳鼻科等の専門医受診は家族が同行している。医療機関との連携が図られている。家族とも受診状況等の情報交換をその都度行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションと医療連携契約をしており、24時間の連絡体制や、週一回の訪問健康チェックを行っています。定期訪問以外にも体調変化が見られた際には相談・指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には可能な限りムンテラに参加し、医師からの情報提供を受けたり、ご家族様の意向を聞き、退院に向け相談・連絡を密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「医療連携体制及び看取りに関する指針」を説明し、重度化や終末期、看取りケアについて理解を得られるようにしています。ご本人・ご家族様の意向を尊重しながら方針を決め、必要時主治医から医療的な説明を行っています。医療連携体制を整え、入居者様の心身の変化を細目にお伝えし、入居者様は最期まで皆と共に生活し、不安を和らげられるように努めています。今年度もお看取りをさせて頂いたが、スタッフの心のフォローも大切と感じています。	入居時に、「医療連携体制及び看取りに関する指針」を家族に説明し、看取りの意向を確認している。医療機関と訪問看護ステーションが法人内にあり、医療連携体制が整備されている。看取りに関するマニュアルも作成しており、職員は安心して取り組んでいる。今年度も看取り(1名)に対応している。家族は前日から一緒に過ごし、面会できたことを喜んでいただいた。他の利用者もホーム内の動きを察しており、一緒にお見送りしている。	「看取り」への、医療連携体制が構築されており、職員の研修も充実している。今後も、利用者・家族の思いや意向に寄り添い、「看取り」への取り組みが継続されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変・事故発生時はマニュアルを作成し、スタッフに周知。適切な対応が出来る様に努めています。搬送が必要な場合はスタッフ間で連携を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響で消防署立会の避難訓練は開催できなかったが、施設単独訓練では慌てず避難出来る様に取り組みました。重度化に伴い、訓練でさえ避難が難しい入居者様が増えており、今後とも避難方法の工夫と周知が必要と考えております。	コロナ禍により、今年は消防署立会はなく、利用者と職員で訓練を行なっている。2階に居住しており、災害時にエレベーターが使えないことを想定し、階段で避難する訓練とした。その結果、車椅子の利用等、身体状況の重度化に伴い、今後も避難方法の検討が必要としている。	重度化が進む利用者個々の避難方法の検討や家族との連絡体制の確認、推進会議等が中心となった近隣住民との協力体制作り、夜間訓練を通じた暗さの体験等々の課題に順次具体的に取組まれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報の学習会を行い、入居者様の想いを尊重し行動を制限したりせず、何を思い、どう感じているのかに寄り添い、人生の大先輩である利用者様への言葉使い、声のトーン、態度など失礼にならない様、拘束にならない様に努めています。排泄のお誘いも周囲に配慮しながらお声掛けし、失敗した際には、特に他者に見られたり、聞かれたりしない様に配慮しています。	排泄や入浴の介助等、特に配慮し言葉遣いや態度等、失礼にならないように努めている。プライバシーや個人情報保護の研修も行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で家事をお願いする際には「○○お願いできませんか？」と自己決定出来る様にお声掛けしています。入浴や排泄等もご本人の気持ちを伺いながら時間をかけ対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者様の個々の思いやペースを大切にし、時間の流れを尊重した対応に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後は可能な限り、一緒に鏡を見て整容しています。衣類の選択が困難な方には、衣類を見せ、選択しやすい様にお声掛けをしています。		

令和 2 年度

事業所名 : すみれグループホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の状態に合わせた食材や形態で提供しています。出来るだけ、盛り付けや食器拭きは一緒に行っています。	法人の管理栄養士が、季節感のある献立を作成している。職員が調理し、利用者は、野菜切り、盛り付け、食器拭き等を行なっている。「たまには麺が食べたい」との声があれば、メニューを変更して楽しんでもらっている。冬至には、家族差し入れのかぼちゃで、小豆かぼちゃが提供され、誕生日には利用者の好みの献立にしている。食事介助が必要な利用者が増え、職員が利用者と一緒に食事を摂れなくなってきている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人が運営する病院の管理栄養士がバランスを考慮した献立を作成。食事・水分摂取量のチェック表を活用し、摂取状況の把握に努めています。入居者様の状況に合わせ、必要時トロミや刻みにて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアのお誘いをして、居室洗面台にて口腔内の清潔保持をしています。ご自身で上手く出来ない方にはスタッフがお手伝いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の個々の排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しお声掛け、お手伝いをしています。ほとんどの方がリハビリパンツとパットを併用しトイレを使用。可能な限り少しでも長くトイレに座っていただける様に、オムツ着用の方でも便座に座っての排泄を支援しています。	利用者の表情や動作等、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。現在、布パンツ2名、その他の利用者はリハビリパンツとパットを使用している。排泄用品の使用については、自立に向け、利用者個々に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時はヨーグルト、夕食時は牛乳を提供し、出来るだけ薬に頼らない排便を促しています。腹部マッサージや冷たい飲み物での刺激もおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、体調に留意しています。ご本人のタイミングに合わせて入浴して頂ける様にお声掛けしています。体調やお気持ちによって入浴出来ない場合は部分浴や清拭で対応しています。週2回、午前の入浴を基本としながら、ご本人のお気持ちに応じ午後も入浴出来る様にしています。入居者の重度化で浴槽に入れない方が増えてきている。	週2回の入浴を基本とし、毎日3名ずつ入浴している。介助時、職員との相性や異性介助に配慮している。体調不良や希望しない等のため入浴できない利用者には、部分浴や清拭、翌日に変更する等、随時柔軟に対応している。日曜日は休みとしているが、必要時は入浴できている。皮膚疾患がある利用者には、足浴を実施している。	

令和 2 年度

事業所名 : すみれグループホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて就寝のお手伝いをしています。日中でも休憩を希望される方には、室内の照明や温度に配慮していつでも休んで頂ける様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明はいつでも確認できる様に最新の情報をファイルし保管しています。不明点や副作用などの問題が現れた際には薬剤師や主治医に相談し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居されるまでの生活や習慣を継続して頂ける様に調理、洗濯、掃除、買い物等日常生活に活かせるお手伝いをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これまでは、天候や体調に合わせて外出のお誘いしていたが、コロナの影響で出来なくなったので、三階のバルコニーで萐やトマトを育て収穫しました。	コロナ禍で、外出が困難になり、3階のバルコニーで外気浴や日光浴をし、外の景色や空気、季節を感じている。また、萐やトマトを栽培し、利用者は水遣りや観察を楽しんだ。利用者と家族が一緒の日帰り温泉旅行が中止になり、家族も落胆している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接現金をお持ちになっている方は居ないが、何か要望があった際には購入できる様にご家族に相談したり、立替払いにてスタッフが購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたいと要望があった際にはスタッフが電話をかける手伝いを行い、お話し出来る様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長い時間過ごされるリビングは季節を感じられる様にな装飾にしたり、イベント時の写真を展示して楽しんでいます。リビングは日当たりがよく、カーテンで調整しています。皆が身近に見渡せる距離感で窓側やEV側にはソファを設置し、一人でゆっくり過ごせるスペースを確保しています。	コロナ禍でリビングを直に確認することは出来なかったが、今はクリスマスの飾りつけの最中で、秋には紅葉で季節感を表現したとのこと。日当たりが良く、明るく、室温も過ごしやすいよう管理され、歩行器や車椅子を使用する利用者増えているが、ホールが狭くならないよう気をつけているとされている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活では一人一人の席で過ごされるが、窓際やEV前でも気分転換が図れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が出来るだけご自宅で使い慣れた物をお持ち頂ける様に説明しています。大好きなぬいぐるみやご家族様の写真お飾り、穏やかに過ごせるように努めています。家具やベッドの位置などは利用者様の動線等を考えご家族・ご本人様と相談し配置しています。	居室には、洗面台、ベッド、タンスが備え付けられている。利用者は、自宅で使い慣れたものを持ち込み、家具やベッドの配置は、利用者や家族と相談して決めている。居室にテレビがなくても、ホールで他の利用者と一緒に観ており不自由はないとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差が無くバリアフリーとなっているが、歩行が不安定な方には安全に配慮しながら見守り、筆余事手引きや車椅子の使用をしています。残存機能を活かし、ご本人様の「出来る」を大切にお手伝いしています。		